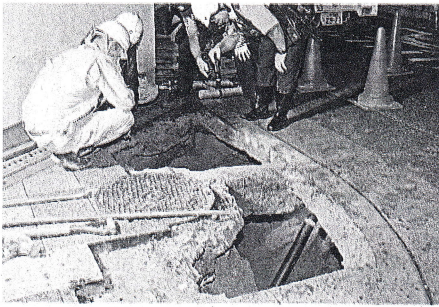


下水道管老朽化↓道路が陥没

年3000件以上事故発生も

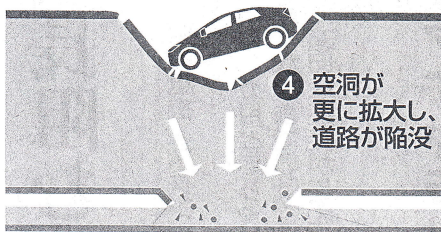
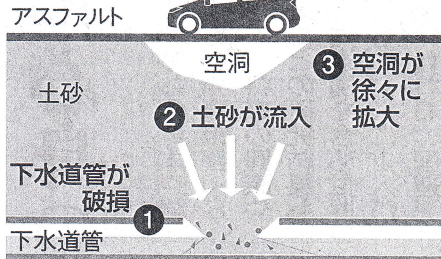
下水道管の老朽化による道路陥没が年3千件以上発生している。今後、高度経済成長期以降に大量に整備された下水道管が耐用年数を迎え、被害が広がる恐れがある。国土交通省は老朽化が目立つ場所で、自治体に点検の強化を求める。

名古屋駅から南に約1
・7月15日、病院やオフ
イスビルが並ぶ幅7・3ミ



下水道の老朽化で歩道が陥没し、2人がけがをした1120
13年9月、大阪府豊中市

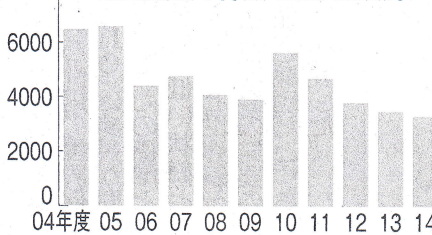
老朽化した下水道管による道路陥没のイメージ



の通りで、中央付近が約1
・5ミ四方、深さ約2ミに
わたり陥没した。
近くの病院の石川敦子院
長(55)は「病院の玄関先5

ミが陥没した。患者や車が
よく通る場所なので、誰も
巻き込まれず、ほっとし
た」と話す。市によると、
老朽化した直径80ミの下水
道管が破損し、土砂が流
入。周囲に空洞が出来たの
が原因という。
国交省によると、下水道
管の老朽化や腐食が原因の
道路陥没は04～14年度、年

下水道管の老朽化や腐食による道路陥没の件数 国土交通省調べ



点検、徹底されず

陥没が相次ぐ背景には、
下水道管の点検が徹底され
ないことがある。国交省に
よると、下水道管は地中で

平均で4655件発生し、
14年度は3313件あっ
た。物損事故は年10件ほ
どあるという。
全国の下水道は1970
年代から整備が加速し、総
延長は約46万キロ。コンクリ
ートの耐用年数である50年
を超える下水道管は約1万
キロと全体の約2%だが、20
年後には約11万キロと10倍以
上に増える。

人目につかず、点検は後回
しにされがちだ。下水道管
を管理する約1500自治
体の担当職員は1997年
度の約4万7千人から20
15年度は約2万9千人に
減り、8割の自治体は点検
をしていなかった。
改正下水道法が昨年11月
に施行され、国交省は20
18年11月以降、下水が細
い管から隙間のある太い管
に流れ、空気に触れること
で管を腐食させる硫化水素
が発生しやすい数ミル数十
ミルの区間について、自治体

に「5年に1回以上」の点
検を義務づける。対象は全
国で約10万カ所ある。
点検職員不足の対策とし
ては、複数の自治体で下水
道を管理する広域化を進め
る。大阪府の富田林市や太
子町など4市町村は5日、
改正下水道法による協議会
を全国で初めて設置。点検
業務の外部発注を共同で進
める。
点検に必要な人手を減ら
すため、東京都八王子市や
千葉県船橋市、大阪府河内
長野市が点検用ロボットを
メーカーと共同開発した際
は、国が各自治体に2億円
を補助した。国交省は「効率
的な点検で陥没事故を減ら
したい」とする。(峯俊一平)